

名古屋港管理組合 港務艇「ぽーとおぶなごや 2」による名古屋港見学会を実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や造船所の見学会などを「船ってサイコ〜」と題し実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。

今般、名古屋港管理組合のご協力のもと、8月23日（水）に名古屋港において港務艇「ぽーとおぶなごや 2」による港内見学会を開催し、一般公募の小学生の親子や中日海洋少年団、四日市海洋少年団など計 50 名が参加しました。

当日は、同組合 安井誘致推進係長の案内により、港の役割や船による輸出入の重要性に関する説明を受けながら名古屋港を航行し、クイズを交えた説明に、参加した子供たちは積極的に手を挙げて答えるなど活気溢れる航海となりました。

船上からは、航行中のコンテナ船や自動車専用船、LNG 船などの大型船舶のほか、建造中の LNG 船を間近に見ることができ、参加者らは写真に収めるなどして、興味深げに観察していました。



また、ガントリークレーンによるコンテナの積み付けの様子を海側から見るとともに、「50 トンの重さを一度に持ち上げられる力がある」という説明に参加者からは驚きの声があがりました。

さらに、輸入品である鉄鉱石や石炭、木材チップ、とうもろこしは専用船などによって運ばれ、日々の生活に活用されている説明を受け、これらの実物を手にした参加者からは「実際に触れる機会もあり、分かりやすく楽しかった」「身近なもののほとんどが海上輸送によって手の届くところにくるといことが印象に残った」「船の役目や仕事を知ることができた」等の声が寄せられ、海運や港湾など海事産業の重要性を深く認識できる見学会となりました。

港務艇下船後は、名古屋海洋博物館にて、海事産業の重要性や名古屋港の歴史を学ぶとともに、操船やガントリークレーンのシミュレーターを体験することができました。

当協会は引き続き会員会社と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

